



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

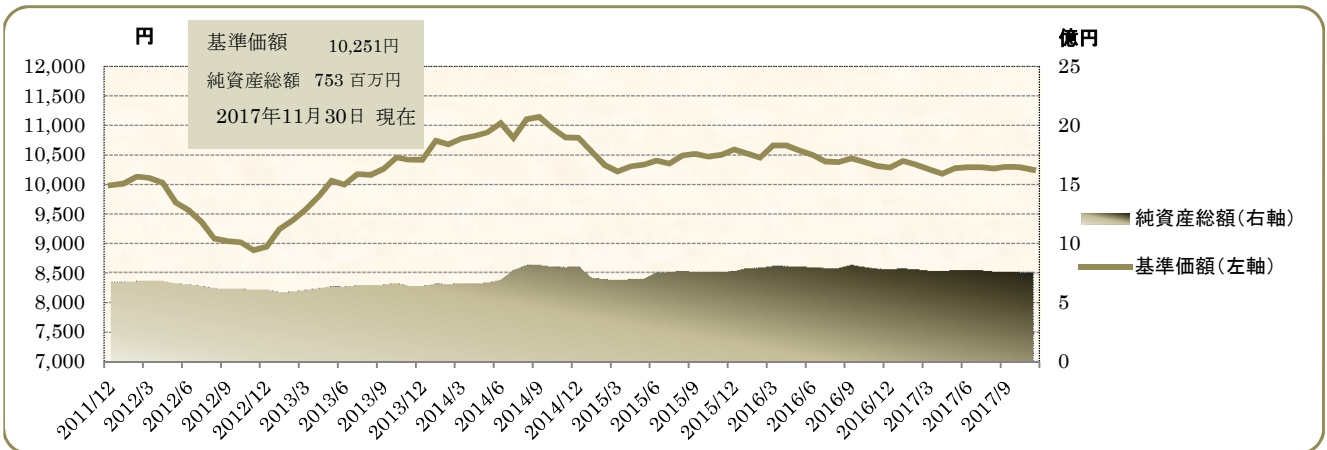
ケイマン諸島籍オープン・エンド契約型外国投資信託(追加型)

作成基準日

2017年11月30日

基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

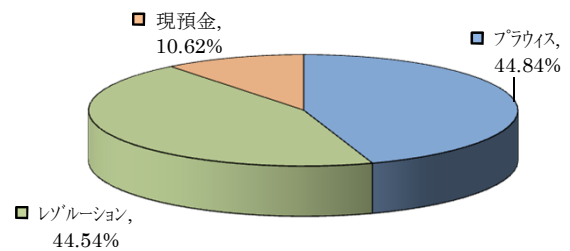
2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	1.12%	-0.65%	-0.70%	-0.74%	0.89%	0.15%	0.02%	-0.24%	0.32%	-0.08%	-0.41%		-0.34%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-0.65%	-0.67%	2.02%	-0.04%	-0.75%	-0.70%	-1.11%	-0.13%	0.67%	-0.58%	-0.66%	-0.29%	-2.90%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
騰落率	-2.19%	-2.07%	-1.13%	0.85%	0.28%	0.68%	-0.50%	1.31%	0.29%	-0.49%	0.32%	0.87%	-1.85%



運用実績

設定日:	2011年12月19日	
決算日:	毎年11月30日	
当初設定元本:	673百万円	
基準日:	2017年11月30日	
基準価額:	10,251円	対前月比 -42円
純資産総額:	753百万円	対前月比 -1.0百万円
設定来高値:	11,146円	
設定来安値:	8,888円	
期間別	3ヶ月	-0.17%
基準価額騰落率	6ヶ月	-0.24%
設定来	ファンド	2.51%
基準価額騰落率	TOPIX	147.68%
	日経平均	170.48%

投資対象ファンドへの資産配分 (2017年11月30日現在)



運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。

投資対象ファンドの基準価額騰落率推移 (諸費用控除後, 税引前)

2017	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	0.49%	-0.64%	-1.07%	0.54%	0.23%	1.11%	1.29%	0.18%	0.89%	0.64%	-0.02%		3.68%
レゾリューション	2.64%	-0.21%	0.10%	-1.57%	2.37%	-0.94%	-0.61%	-0.11%	0.42%	-0.15%	-0.30%		1.58%
2016	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-0.72%	-0.39%	1.59%	0.73%	-1.70%	-2.76%	-0.40%	0.23%	0.59%	0.33%	1.76%	0.04%	-0.80%
ウィズダム	-0.47%	-2.84%	1.22%	0.50%	-1.58%	-1.30%	-0.63%	-1.17%	0.52%	-0.71%	-0.53%	N/A※	-6.83%
レゾリューション	0.02%	1.80%	4.82%	-0.39%	1.60%	2.29%	-1.64%	1.14%	1.99%	-0.53%	-2.34%	-0.01%	8.87%
2015	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年初来
プラウイス	-2.91%	0.43%	-0.74%	1.81%	0.84%	-0.27%	0.22%	0.84%	0.48%	0.83%	0.19%	0.15%	1.82%
ウィズダム	-1.38%	-1.99%	-0.24%	0.27%	0.85%	1.82%	0.96%	1.39%	-0.95%	0.00%	0.92%	0.54%	2.14%
レゾリューション	-1.92%	-4.43%	-1.60%	1.93%	0.57%	2.72%	-1.63%	3.38%	2.61%	-1.26%	1.14%	3.19%	4.44%

※ 上記騰落率は投資対象ファンドの費用控除後の騰落率です。エピック・ヘッジファンド・セレクション1 (以下「HFS」という) にかかるコスト等が含まれないため、投資対象ファンドの騰落率を資産配分結果で加重平均した場合、HFSの基準価額騰落率とは一致いたしません。

※ HFS1へのウィズダムの組み入れは、2016年11月末までです。ウィズダムは2017年1月25日をもって償還しました。



エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

相場動向

11月の株式相場は、日経平均で3.24%上昇の22,724.96円、TOPIXで1.48%上昇の1,792.08ptとなりました。決算発表が本格化し、企業業績の改善期待などを背景に約26年ぶりの高水準となりました。後半利益確定売りが入り下落に転じましたが、米株高や堅調なアジア株を背景に再び上昇しました。

上旬は、上昇しました。電機株や精密株など好決算や業績見通しの上方修正を発表した銘柄などに買いが集まり、日経平均は96年6月の高値を上回り、約26年ぶりの水準まで上昇しました。その後、米税制改革への不透明感などから売られ、上げ幅を縮小させました。

中旬は、下落しました。米税制改革の先行き不透明感から米株が下落。決算発表も一巡し、材料出尽くし感から好決算を手掛かりに買われてきた銘柄を中心に下落しました。

下旬は、上昇しました。欧米株高や堅調なアジア株を好感し、景気敏感株などが上昇しました。その後、中国景気の減速への懸念から半導体関連株などに売りが入りましたが、月末は米上院予算委員会が税制改革法案を可決し米株高となり、金融株や出遅れ感のある銘柄が上昇しました。

セクター別騰落率では、石油・石炭、小売、海運、鉱業、空運が上位となり、ゴム製品、繊維製品、水産・農林、非鉄金属、電力・ガスが下位となりました。

東証一部の売買代金は1日当たり3.22兆円と、活況の目安となる2兆円を13ヵ月連続で上回り、13年5月以来の3兆円超えとなりました。新興市場の騰落率は、JASDAQインデックスが4.5%の上昇、東証マザーズ指数は2.9%の上昇となり、TOPIXをアウトパフォームしました。ファクター面では、グロース優位の展開となりました。2017年7-9月期の好調な決算結果がグロースシフトを促し、予想ROEのファクターリターンが+2.98%、経常利益成長率のファクターリターンが+3.16%と、好調に推移しました。一方バリュエーションのリターンは大幅なマイナスで、B/Pが-4.7%、予想E/Pが-3.34%となりました。GICS産業グループの24業種のうち17業種がマイナスに寄与するなど、幅広いセクターで割安銘柄が売られました。

組入ファンドの運用状況と今後の市況見通し及び投資戦略

【ブラウイス】

〈ファンド運用状況〉

11月の運用成績はJPYクラスで-0.02%となりました。11月前半は、決算を受けて業績見合いの株価形成となっていたことから堅調なパフォーマンスとなりましたが、中旬以降は、ショートしていた内需銘柄が相対的にアウトパフォームしたことなどにより軟調な運用成績となりました。

セクター別の損益では、化学、機械、銀行、不動産セクターでプラスとなり、食品、情報通信、ガラス土石セクターでマイナスとなりました。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

12月の株式市場は、揉み合いの相場展開を想定します。これまで相場をリードしてきた半導体関連株が市況軟化観測により利益確定売りに押されやすいことから、当面は上値の重い展開になると思われます。しかし、下落局面では日銀のETF買いに加え、投資家の押し目買い意欲も強まると思われ、下値も限定的と考えます。

今後の運用方針は、個別企業の業績・需給動向や国内外のマクロ動向を勘案し、相対的な割高・割安を適切に判断しながら、マーケットの上下に左右されない安定した収益の獲得を目指します。

【レゾリューション】

〈ファンド運用状況〉

11月の株式市場は、スタイルインデックスで見ると、先月より推移してきた大型優位が、月末近くに一気に調整し、月内ほぼ横ばいとなっています。月を通してローリスクが強く、月末近辺はバリュエーションのみが優位となりました。

ファンドパフォーマンスは、途中プラスで推移していたものの、月末に向けた相場転換の中でマイナスになってしまいました。

パフォーマンス寄与で見ると、プラス寄与が、内需グロースを中心としたロング銘柄であり、マイナス寄与は一部ショート銘柄となっています。ただし、マイナス寄与の銘柄は分散されており、何か足を引っ張られた銘柄やファクターがあったというより、多くのロング銘柄が指数ほど上がらなかったことにあると思われます。

〈今後の市況見通し及び投資戦略〉

基本的には業績で大きなバリュエーションを付ける相場に変化なく、個人主体のハイバリュエーションな小型株の勢いもある程度維持されると考えます。

12月は、引き続き内需グロース銘柄を中心としながらも、可能な限り銘柄入替と銘柄集約を進めます。

今後は、底上げ的に小型株全体が買われるような前提に立っていないため、個別性の高い銘柄の寄与を高めるようなポジションに移行したいと思っています。

来年には、若干月次のボラティリティが上昇したとしても、ロング銘柄の寄与により、年間を通じて意味のあるプラスパフォーマンスが狙えると考えます。

投資信託の主な関係法人

管理会社:	インターナショナル・マネジメント・サービス・リミテッド
信託会社:	G.A.S. (ケイマン)リミテッド
管理事務代行会社:	エスエムティー・ファンド・サービス(アイルランド)リミテッド
保管銀行:	スミトモ・ミツイ・トラスト(ユーケイ)リミテッド
投資運用会社:	エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第432号 加入協会:一般社団法人 日本投資顧問業協会
代行協会員・日本における販売会社:	ヘッジファンド証券株式会社 http://hedgefund-sec.com/ 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2580号 加入協会:日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

エピック・ヘッジファンド・セレクション1 月次運用レポート

金融商品取引法に基づく表示

商号等

エピック・パートナーズ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第432号

当社が加入する協会等について

一般社団法人 日本投資顧問業協会 加入 第011-01395号

ご留意事項

- 当資料は投資信託の運用状況をお知らせするためにエピック・パートナーズ・インベストメンツが作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。
- 投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。
- 当資料は特定の有価証券等の取得の申込み、投資顧問契約、投資一任契約の勧誘等を目的としたものではありません。
- 当資料内の運用実績等に関するグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を示唆または保証するものではありません。
- 当資料内のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料は各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 投資信託は、株式等を投資対象としますので、組入株式の価格下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落することがあります。
したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。
- 運用管理費用、監査費用、その他の諸経費が、投資信託の保有期間に応じてかかりますが、事前にその上限を示すことができません。また、有価証券の売買等に係る手数料、租税等が発生しますが、運用の状況により変動しますので事前にその上限を示すことができません。

当資料は、投資運用会社であるエピック・パートナーズ・インベストメンツが投資信託の運用状況をお知らせするために作成した資料であり、法令に基づく開示資料ではありません。

投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をお受け取りになり、その内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客様ご自身が投資に関してご判断ください。